

はねっと 4

仙台市市民活動サポートセンター通信 ばれっと

“ばれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



「協働」地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

不登校の子どもが学びの場を選べる社会づくり

少子化で年々子どもの数が減っているにも関わらず、全国で不登校の児童が増え続けている現状があります。様々な事情で登校できない子どもが、教育の機会を失わないために、文部科学省では2017年2月に「教育機会確保法(※)」を施行。宮城県でも、不登校の子どもが個々の状況に応じて、居場所や学びの場などの環境を確保できるように、民間団体、行政、教育機関など様々な主体が連携した取り組みが始まっています。



多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク

Social Academy 寺子屋代表 たかはしのぶゆき 高橋 信行 さん	ふとうこうカフェin せんだいみやぎ 代表 たけやまりえ 武山 理恵 さん	一般社団法人 フリースペース道 代表 たかはしまさみち 高橋 雅道 さん	フリースクール IN ごぎげんサロン こころのテラス 代表 さかい じゅんや 坂井 純也 さん
--	--	---	--

他所属団体: 特定非営利活動法人まきばフリースクール(栗原市)/NPO法人こども∞(むげん) 感ばにー(石巻市)/一般社団法人フリースペースつなぎ(気仙沼市)/ひびのくらしの家(登米市)/ほっとスペースわっか(登米市)

※不登校児童生徒の支援のための法律である「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律(教育機会確保法)」のポイント

- ・すべての子どもが豊かで安心できる学校にすること
- ・不登校の子どもはフリースクールや家庭など多様なかたちで学んでいるので、一人ひとりにあった支援をすること
- ・国、地方公共団体、フリースクールや親の会等、民間の団体その他の関係者がお互いに協力して連携していること

- ・個々の不登校児童生徒の休養の必要性が認められていること
- ・学校や地方公共団体は、子どもや保護者に必要な情報提供をすること

出典: みやぎ子どもの居場所マップ(発行: 多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク)

不登校の子どもを地域で支える

文部科学省で2020年10月に発表された、「2019年度児童生徒問題行動・不登校調査」で、宮城県では小中学生1000人あたりの不登校児童生徒の割合が4年連続で全国最多となりました。「不登校は、どの子にも起こり得ることで、決して問題行動ではない」と発信しているのは、「多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク」(以下、みやぎネット)です。教育機会確保法を基に、子どもに多様な学びの場を提供できる地域社会をつくろうと活動しています。みやぎネットには、子どもの居場所支援をする、県内のフリースクールや親の会など9団体が所属。代表は、気仙沼市の一般社団法人フリースペースつなぎ代表の中村みちよさんです。月1回のみやぎネット定例会での議論を基に、フリースクールの運営方法の共有や不登校に関する調査などを実施。不登校に関する勉強会・

講演会を開催する際は、県議会議員、県教育委員会職員を招き、共に意見交換をしながら行政に政策提言を行うなど、不登校の子どもを地域で支える仕組みづくりをしています。

どの子にも明るく前向きに過ごせる居場所がある

みやぎネットは、2019年4月に設立。課題に感じていたのは、不登校が問題行動だという考えから、子どもが多様な学びの機会を失っていることでした。これまでの文部科学省の不登校への対応は、「学校復帰を目的」としたものでしたが、2019年10月、「学校復帰」を前提とせず「社会的自立」を目指すことに方針を変更。しかし、仙台市のふとうこうカフェinせんだいみやぎ代表武山理恵さんは、「子どもや親に“学校には戻るべき”という思い込みがあることで、子どもも親も行き詰ってしまう。悩む親の力になるため、親の会を続けてきた」と話します。大崎市

子どもが多様な 学びの場を 選択できる 地域社会



の一般社団法人フリースペース道代表の高橋雅道さんは、「子どもには、自分に合った場所で学ぶ権利があるということを知って欲しい」と力を込めます。

みやネットでは、学校以外にも学べる場所あることを知ってもらおうと、2020年11月に「みやぎ子どもの居場所マップ」(以下、マップ)を発行。資金はクラウドファンディングで募りました。マップでは、フリースクールやプレーパーク、子ども食堂や親の会などの民間団体と共に、県や市が運営する学習支援や教育相談ができる場を含め、合計76箇所の多様な居場所を紹介。また、教育機会確保法のポイントも掲載しました。マップづくりを通じて、県や県教育委員会との協議を重ね、宮城県では初となる官民連携の子どもの居場所マップとなりました。仙台市のフリースクール IN ごきげんサロンこころのテラス代表坂井純也さんは「不登校を特別なこととして捉えず、学校以外にも学びの場があると知ってもらい、学校に行かないことへの罪悪感や悩みがなくなれば」と話します。

不登校をとりまく社会のあり方を変えていく

2020年11月に、みやネットは、不登校の現状や当事

者の声を今後の不登校支援や関係機関との連携に繋ごうと、SNSで緊急アンケートを実施。1週間で163人が回答しました。同月に開催した、不登校の子どもへの支援を考えるシンポジウムでは、出席していた県教育長にアンケート結果と共にマップを提出。その後、仙台市長、宮城県知事にも提出し、更なる支援と連携を求めました。高橋雅道さんは、「フリースクールで過ごした日々が、学校の出席日数に反映され、卒業証書もらえるようになったら…」と話します。一方で、大崎市のSocial Academy寺子屋 代表の高橋信行さんは、「子どもの居場所づくりをしている民間団体は、厳しい予算の中で疲弊している」と課題を示し、「継続的な活動にしていきたいため、新しい仕組みを求めて行政に政策提言をしていく」と未来を見据えます。

多様な学びを共につくる・ みやぎネットワーク

Mail t.miyonet@gmail.com

みやぎ子どもの居場所マップはHPから
ダウンロード可能→



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。
「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を
応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 4月14日(水)、28日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



「ばれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。
ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の
様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者: 特定非営利活動法人

せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2021年4月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[Youtube]

サポセンちゃんねる

